

## 開花時期が早く、花粉量もあるキウイフルーツの雄品種K1の選抜

ヘイワードの人工授粉については、雄品種の開花時期の重複による花粉の確保が問題となっていた。本品種の導入により、花粉を早期に採取することが可能となり人工授粉の徹底が図れる。また、直売向けの中国系キウイフルーツへの授粉が可能となる。

- 1 K1（イエロー紅心×トムリ）の開花時期は、トムリより早く、花糸数も、K1が、トムリより多い傾向を示した（表1）。
- 2 花粉を10%ショ糖を含む1%の寒天培地にまき、透過型顕微鏡100倍で2視野について発芽率を調査した結果、K1の発芽率は、トムリよりも低い、十分である値を示した（表2）。

表1 平成17年花の形質（5月25日調査）

品 種	開花時期	花弁枚数 枚	花糸数 本	花の大きさ mm
K 1	5月18日	5.4	188.0	54.8
トムリ	5月25日	6.0	169.4	56.0

表2 平成18年花粉の発芽率 6月27日調査

品 種	調査数	発芽数	発芽率
K 1	331	231	74.9
トムリ	105	95	91.5



図1 K1の開花状況  
平成18年5月12日撮影



図2 K1 花  
平成18年5月17日撮影  
神奈川県農業技術センター(2006.10.1)